

クチキトビケラ

Asotocerus nigripennis Kuwayama
トビケラ目・アシエダトビケラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

近畿地方では池や湿地等の生息地が開発によって消失しているとされる。県内でも今回の調査では確認できておらず、1997年以降記録がない。県内での生息域は局限されていると考えられる。

分 布

本州、九州に分布。県内では大野市下庄村での戦前の記録と、敦賀市池ノ河内での1995年の記録があるのみ。

種の特徴

体長15mm前後、開張45mm前後。体色は黒褐色。前翅、後翅ともに黒褐色で明瞭な斑紋はなく、半透明。翅形には性的2型があり、オスの前翅は細長く先端はやや尖るが、メスでは尖らない。山地溪流や湿地の細流に生息し、成虫は5～7月に出現。幼虫は小枝を穿った非常に特異な筒巣を作る。

生息を脅かす要因

池沼開発、湿地開発、溪流の水質汚染が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○										○	

ハマゴウノメイガ

Aglaopus albipennis (Inoue)
チョウ目・ツトガ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：— 【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では三里浜のみで記録がある。海浜のハマゴウ群落に依存した種であり、砂浜海岸は人為的影響を受けやすい環境であることから、存続基盤への圧力は強い。石川県で絶滅危惧II類、京都府で要注目に指定されている。

分 布

本州～九州、三宅島に分布。県内では2000年に初めて三里浜でみつきり、2014年、2015年にも同地域で確認されている。

種の特徴

開張18mm前後。前翅、後翅はやや光沢のある白色で、横線は淡灰黒色。前翅前縁は灰黒色を帯びる。成虫は7月下旬～8月に出現。幼虫はクマツヅラ科のハマゴウの花部を食べ、石川県では7月中旬～9月上旬にみられるという。

生息を脅かす要因

海浜のハマゴウ群落に依存した種であり、海岸開発や、砂浜への車の乗り入れ等が脅威となる。

参考文献 石川県自然環境課（2009）、京都府自然環境保全課（2015）、富沢（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

スジグロチャバネセセリ（北海道・本州・九州亜種）

Thymelicus leoninus leoninus (Butler)
チョウ目・セセリチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

北海道では近年分布を拡大しているようだが、そのほかの地域では減少傾向が大きく、特に本州の関東、中部、中国及び九州では減少が著しいという。本県では大野市内に記録があり、今回の調査でも確認されたが、もともと少なかった個体数がさらに減少している。

分 布

北海道、本州、九州に分布。県内ではこれまで大野市内の溪流沿いの狭い草地在り生息地として知られていた。今回も大野市内で生息が確認されたが、生息数が減少している。

種の特徴

小型。表は黒褐色に橙色の斑紋が広がる。裏は一樣に黄橙色で、翅脈上に黒条が目立つ。草原や樹林が混在する疎林や林縁部に生息し、成虫は年1回、7～8月頃にみられる。食草はイネ科のヤマカモジグサやカモジグサ等。

生息を脅かす要因

管理放棄等により草原環境が森林化したのが明確な減少要因とされる。一方、以前と環境がさほど変化していなくても本種が減少している場所もあり、この地点での減少原因は定かではない。

参考文献

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	